

日常会話の難しさ

自宅に一人で暮らしていて人と接する機会がほとんどなかった高齢の方が、介護が必要な状態になると、訪問介護を利用したり、施設に通ったり、もしくは施設に入居することが考えられます。すると、これまでの生活と違って、初対面の人と接する機会が急に増えます。

初対面の人とさりげない会話をするのは、誰にとっても難しいものです。普段から人と接する機会が多い人でもそうでずから、人と接する機会が少ない人にとっては、なおさら難しいと感じるでしょう。難しいだけでなく、億劫であったり、もしくは知らない人なので怖いと感じることもあると思います。

一方、介護職の中にも、初対面の人と会話するのは得意ではないという人がいるでしょう。筆者自身、初対面の人と会話するのは、元来それほど得意ではありません。

では、そのような人同士がスムーズに会話でき、なおかつ、お互いに楽しくなるためにはどうしたらよいのでしょうか。

本連載では、普段会話の機会が少ない高齢者が、初対面の人とでも楽しく会話できるように考案した、「会話支援手法」共想法」と、その背景にある会話の難しさ、

特に日常会話の難しさを乗り越える方法について紹介します。初対面の高齢者同士はもちろんのこと、初対面の職員と利用者、これまで介護に携わってきたものの、実はあまり会話をしたことがない職員と利用者、施設に入居・通所する利用者同士が、お互いのよいところや面白いところを、発見あるいは再発見することに活用できるように。

連載第1回の今回は、日常会話がなぜ難しいのか、その難しさを取り除く方法について考えます。まず、難しさの原因の一つである、「何を話したらよいか？」という問題について考えていきます。

好きなものごとについて聞いてみよう

たとえば、道を歩いている時、80歳代ぐらいのおじいさんが杖をつけて歩いているのを見かけたとき。

あなたはこの方にどのような印象をもつでしょうか？ 単に「80歳代くらいのおじいさんで杖をつけているな」と思うかもしれません。

「腰をかばいながら歩いているから、腰椎椎間板ヘルニアなのではないか」などと推測するかもしれません。あるいは、何の印象をもたずにすれ違ってしまいう可能性もあるでしょう。

第1回 テーマを決めて 会話のツボを探す

利用者とのコミュニケーションに苦手意識を持っていませんか？

そのことでストレスを感じていませんか？

本連載では、なぜコミュニケーションをとるのが難しいと感じるのか、どうすれば「楽しい」と感じるようになるのかを明らかにするとともに、具体的なコミュニケーションの方法として、「共想法」を紹介していきます。

東京大学 人工物工学研究
センター 准教授、
NPO法人ほのぼの研究所
代表理事

●大武美保子